

# 脳神経外科

## 当科は 「脳卒中を予防するための手術にも」 積極的に取り組んでいます

### 脳卒中の影響

脳卒中の腫瘍疾患別死亡率は、2011年以降に、ガン、心疾患、肺炎に次いで、第4位となっていますが、社会復帰を妨げる後遺症を残すことも多く、健康寿命を短くする最大の原因疾患です。このため、我々に求められているのは、脳卒中に対する遅滞ない治療を行うとともに、防ぐことのできる脳卒中を予防することです。

### 対象疾患

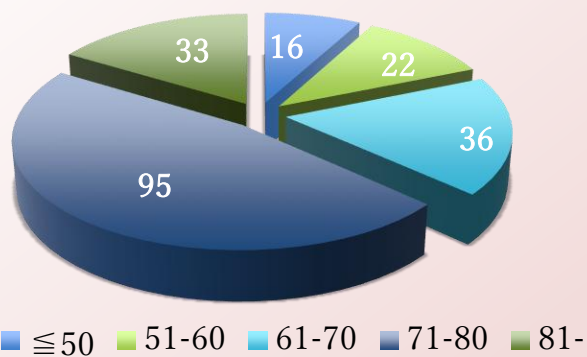
- ① くも膜下出血の原因となりうる、未破裂脳動脈瘤
- ② 脳梗塞の原因となりうる、内頸動脈狭窄症

### 実績

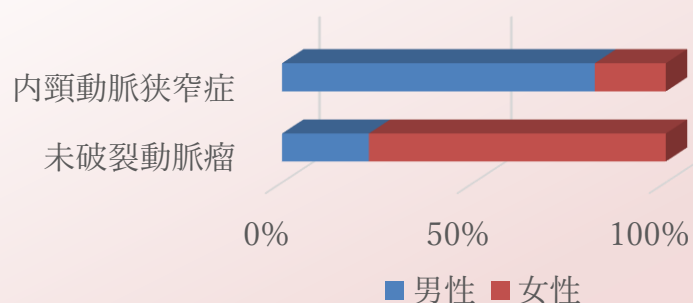
疾患	術式	手術数
未破裂脳動脈瘤	クリッピング術	17
	コイル塞栓術	116
	FD留置	2
内頸動脈狭窄症	内膜剥離術	5
	ステント留置術(拡張術含む)	152
合計		292

治療患者年齢 44-90歳 (平均 70.1歳)

#### 患者年齢分布

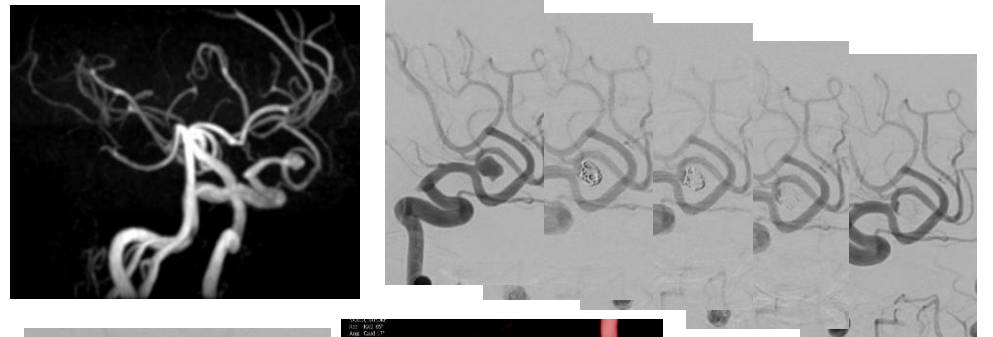


#### 疾患別男女比



### 未破裂脳動脈瘤に対するコイル塞栓術

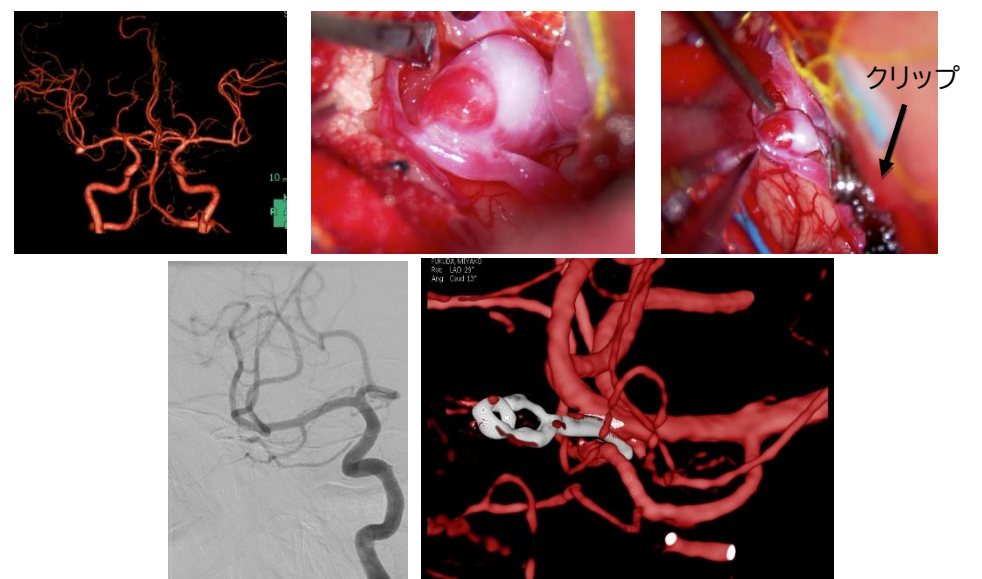
46歳男性 脳ドックで偶然に発見された6mmの未破裂中大脳動脈瘤



治療1年後の血管撮影所見

### 未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術

53歳女性 くも膜下出血の家族歴があり、念のために受けたMRIで偶然に発見された6mmの未破裂右中大脳動脈瘤



### 内頸動脈狭窄症に対するステント留置術

87歳男性 近医で頸動脈超音波検査を行われ、偶然に左内頸動脈高度狭窄を指摘され紹介

